

## 情報通信審議会 情報通信技術分科会

### 電波利用環境委員会 CISP B 作業班(第 28 回)

#### 議事要旨

1 開催日時：令和 7 年 9 月 24 日（水）16:00～17:55

2 開催場所：Web 会議開催 (Cisco Webex)

3 出席者（敬称略）

【構成員】久保田主任 (TELEC)、中村主任代理 (鉄道総研)、田島主任代理 (NTT-AT)、安藤構成員（送配電網協議会）、石黒構成員 (JET)、井上 (博) 構成員 (JEMA)、井上 (正) 構成員 (東陽 EMC)、尾崎構成員 (富士電機)、笠井構成員 (超音波工業会)、加藤構成員 (電技協)、金子構成員 (日本溶接協会)、河瀬構成員 (富士電機)、木下構成員 (JEITA)、佐藤構成員 (JR 東日本)、竹内構成員 (鉄道総研)、田邊構成員 (日本大学)、永野構成員 (ARIB)、西田構成員 (医機連)、橋本構成員 (NHK)、三塚構成員 (TELEC)、宮下構成員 (電中研)、山中構成員 (NICT)

【関係者】雨宮関係者 (VCCI)、後藤関係者 (NICT)

【事務局】総務省：向井電波環境課長、今泉電波監視官、郷藤電磁障害係長(記)、内田官

#### 4 議事要旨

##### (1) CISP B 小委員会 総会等 国際会議審議結果

WG7 の審議結果について、田島主任代理より資料 28-1-1 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

次に、総会の審議結果について、久保田主任より資料 28-1-2 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

##### (2) 電波利用環境委員会 報告(案)について

CISP ニューデリー会議に関する電波利用環境委員会報告(案)について、久保田主任より資料 28-2-1 及び資料 28-2-2 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

##### (3) CISP B 小委員会 WG 等 対処方針(案)について

CISP B 小委員会 WG2 の対処方針案について、中村主任代理より資料 28-3-1 に基づき説明が行われた。補足・質疑応答は次のとおり。

三塚構成員：ロッドアンテナの件について、CISP/B から CISP/A に文書を回付して回答があり、CISP/B でも検討が必要となっていたかと思うが、対処方針に追記してはどうか。

久保田主任：対処方針にどこまで記載するかというご意見であるが、CISP/A においてすぐに進む話ではないため、まずは WG2 の中で ロッドアンテナを使うことの適性とその校正をどうするかについて、議論を深める必要がある。現行の対処方針でカバーできると思うがいかがか。

三塚構成員：承知した。

中村主任代理：TR18-2 にロッドアンテナによる測定法を早急に導入することへの反対に際して、ご意見いただいた背景があるということを踏まえて対処する。

次に、CISPR B 小委員会 AHG4 の対処方針案について、久保田主任より資料 28-3-2 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

#### (4) 電波利用環境委員会 報告(案)について

CISPR 11 国内答申に関する電波利用環境委員会報告(案)について、CISPR 11 アドホックグループのリーダーである後藤関係者より資料 28-4-1、資料 28-4-2 及び資料 28-4-3 に基づき説明が行われた。補足・質疑応答は次のとおり。

事務局：資料 28-4-3 の表 16 の 81.848-134.786 MHz における FAR での電界強度許容値について、準尖頭値は 39~37、平均値は 34~32 の誤記であったため訂正する。

久保田主任：承知した。

山中構成員：電子レンジに関するデビエーションについて、概要版で( $\mu V$ )が不要との話であったが、委員会報告本文も同様の修正が必要か。

後藤関係者：そのとおりである。

山中構成員：デビエーション期間について5年となっているが、その根拠のアドホックグループでの議論について教えてほしい。

後藤関係者：前回答申でもデビエーションがあったが、期限が明確となっていなかった。干渉防止の観点で期限を定めないのであることは良いことではなく、工業会においても努力されており、そういった妥当性等を考慮して5年と議論された。

山中構成員：アドホックで合意されたと理解した。  
委員会報告の第5項のところで、「定義」から「略語」への修正や、付則 ZB の後の文章がない点も修正されたい。

後藤関係者：承知した。

最後に、CISPR 11 に関する国内答申案の取りまとめに際し、向井電波環境課長よりアドホックグループ構成員及び作業班構成員に対して謝辞が述べられた。

#### (5) その他

その他として、以下の議論があった。

田島主任代理：WG7 に関して、山中構成員にお伺いしたいのだが、設置場所試験の電界強度距離換算について、CISPR 16-2-3 の式 14 で定義されているが、カナダのエキスパートから 20dB/decade に変更したいと改定提案があった。CISPR 16-2-3、CISPR 11 ではビルの外壁を基準としており、3m から 10m の換算では係数 0.6 を、10m から 30m では係数 0.8 をかけた変換式となっているが、成り立ちの経緯についてご教示いただけないか。

山中構成員：その件については、久保田主任、井上(正)構成員がよくご存じではないか。

井上(正)構成員：歴史的には 20dB/decade が続いていたが、大雑把な換算であり、その後  
CISPR 16 で厳密な換算として、係数の 0.6 や 0.8 が出てきた。FCC では  
20dB/decade でやっているの、それでまとめるという意見かと思われる。

田島主任代理：10 月末までにコメントする必要があるの、相談させていただきたい。

井上(正)構成員：調べてみるので、別途相談させていただければと思う。

三塚構成員：過去、実測した結果であるので、別の機会に相談させていただきたい。

事務局から今後のスケジュールとして、資料 28-4-1、資料 28-4-2 及び資料 28-4-3 を、10 月 1  
日(水)に開催される次回の電波利用環境委員会で報告する。また、資料 28-2-1 及び資料 28-2-2  
を、10 月下旬に開催される次々回の電波利用環境委員会で報告すると説明があった。

また、次回作業班については、事務局より別途連絡すると説明があった。

以上